



小学生から20代まで
切れ目なくサポートする
環境づくりに挑戦

特定非営利活動法人ちょうふ子どもネット
理事長 平澤 和哉さん (写真左)
事務局/地域活性化事業リーダー 馬場 直史さん (写真右)

写真の建物の3、4階がちょうふ子どもネットが運営する、中高生世代の居場所「CAPS」(調布市上石原)。

「NPO法人ちょうふ子どもネット(以下ちょうふ子どもネット)は、中高生世代の健全な成長と豊かな人格形成を目的に、2004(平成16)年に設立されました。現在は、近隣との交流や地域のPR活動を行う『若者の活躍による地域活性化』、「調布市青少年ステーションCAPS」の運営を通じた『中高生世代の居場所づくり』、地域の若者に社会体験・就労体験の場を提供する『就労支援』という3つの事業を柱に活動しています。

「私たちがNPO法人を立ち上げたのは、調布市からCAPSの運営を受託したことがきっかけです。ここから中高生世代の支援活動が始まりました」と、ちょうふ子どもネット理事長の平澤和哉さんと地域活性化事業リーダーの馬場直史さん。

現在も多くの中高生世代が集うCAPS。コロナ禍の今は利用に制約があるものの、これまでに40万人を超える中高生がここで時間を過ごしたそうです。

「いつ来ても、いつ帰っても、何をしても、何もなくてもいい。CAPSは家でも学校でもない、中高生世代の第三の居場所です。私たちの役割は日常の関わりから彼らのニーズを感じ取り、さりげなくサポートすること。主体的に動くのは子どもたちです。うまくいけば達成感が得られ、自己肯定感を高めることができます」と、平澤さん。

ここ数年はCAPSを訪れる子どもたちに変化が見られると言葉を続けます。

「SNSなどで友達ともめてしまう子や、親がリモートワークになって家に居づらくなってしまった子も増えていきます。彼らが安心して交流できる居場所として、CAPSの運営に努めています」と。

若者に寄り添い、
社会とのつながりを
支援する。



夏祭りやクリスマスパーティーなど、中高生が実行委員となって大きなイベントが開催される。



ダンススタジオでは、CAPSの卒業生や様々なジャンルのプロダンサーを招いてワークショップを行うことも。



CAPS4階にあるスポーツエリアでは、フットサルやサッカー、バレーボールなどが楽しめる。

子どもから20代まで切れ目のない支援を実現する

ちょうふ子どもネットでは、今年から小学生を対象とした支援も始めています。

「中高6年間をサポートしているうちに、幼い頃の家庭環境が子どもたちにも大きく影響していると考えられるようになりました。そんな折、調布市から『緑ヶ丘児童館学童クラブ』の業務委託のお話をいただき、今年から運営しています」と、平澤さん。

また、CAPS卒業生への支援も行っています。

「18歳でCAPSを卒業した後も、『大学に進学したけれど、友達ができずに退学した』、『職場で周囲とうまく合わせられない』などと悩んで相談に来る若者が増えています。彼らを社会につなげていくためには、20代までじっくりサポートしていく環境が必要です」

子どもから若者まで、幅広い世代を支援していくには、「自分たちの力だけでなく、行政や市内の様々な支援団体と連携していくことが大切」と平澤さんは言います。そして、周囲との関係を深めていくために、様々な施設の運営やイベントの実行委員などに積極的に関わっていききたいとも。

「つながりが増えるほど、私たちの活動や思いの認知度も上がっていきます。最近では行政や様々な団体から、『一緒にやってほしい』、『講座の講師を頼みたい』などと声をかけていただけるようになりました。これまでの活動で培ってきたネットワークやノウハウが中高生世代や若者世代の成長につながり、彼らの力を地域に還元していく一助になればと思っています」

ちょうふ子どもネット 地域活性化の取り組み

SDGsカードゲームで、
地域と、世界とつながる!

ちょうふ子どもネットでは、若者のSDGsへの理解を深め、「できることから行動を起こし、地域課題と世界課題を解決する」という観点から、SDGsのカードゲームを活用した市民講座を開催。理事や馬場さんを中心に、2020(令和2)年までに全国で約150回の講座を実施し、4,000人以上が参加しました。参加者は地元の議員や親子連れ、年配の方など世代も職業も様々。中高生もゲームを通して多様な人とつながりました。



ちょうふ子どもネット 就労支援の取り組み

調布の魅力を発信しながら
社会へ出るトレーニング

調布駅前の「ぬくもりステーション」は、ちょうふ子どもネットが市からの委託を受け、2010(平成22)年から運営している観光案内所。この場所は、観光で訪れる人に調布の魅力を発信するだけでなく、地域の若者の社会体験・就労支援の場としての役割も担っています。若者たちは「ぬくもりステーション」で様々な年代のスタッフとともに働くことで、社会人としてのマナーを身につけ、コミュニケーション力を高めています。

